

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4571800293		
法人名	五健有限会社		
事業所名	グループホーム太陽の郷		
所在地	小林市野尻町三ヶ野山608番地9		
自己評価作成日	平成23年9月15日	評価結果市町村受理日	平成24年1月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=4571800293&SCD=320&PCD=45
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階		
訪問調査日	平成23年10月18日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

国道より引込んだ田園山林の緑豊かな自然と住宅に囲まれた静かな所に立地し、季節感を味わう鳥のさえずりや、四季折々の花や草花を散歩しながら楽しむことのできる癒しの環境です。利用者家族はいつでも気軽に訪問されて、絆を大切にされるよう雰囲気作りを心がけています。利用者が安心して家庭的に暮らせるよう近隣の人との交流を図り、地域の一員として馴染みの生活ができるよう支援しています。また、防災対策では毎月の防災訓練を実施する取り組みをしています。生活の質の向上を目的としては、音楽療法士による専門的な音楽療法を取り入れています。食の楽しみでは、ホーム独自の手作り味噌で調理し、旬の食材で馴染みのある田舎料理を提供しています。また、職員と利用者と一緒に野菜を作るよう家庭菜園があります。野菜の成長や収穫の喜びをつくれる環境作りをしています。事業所は家族との信頼関係を図るため連絡相談をしながら、協力を頂き利用者の支援をしています。また、家族へは、毎月お便りで個々の利用者の近況を報告し、サービスや現状を理解してもらっている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者や職員がとても明るく穏やかに優しい笑顔で生活している。運営者自ら地域の中のホームという認識から、積極的に地域活動に参加しており、運営推進会議にも地域の商店主や住民代表も加わり、提案やアイデア等を取り入れ、反映させている。事業所の基本理念をベースに、全職員が月1回のローテーションで独自の理念を作り、実践を振り返り共有合っている。家族の意向や利用者の思いを十分尊重しながら、一人ひとりの生活ペースに合わせた支援をしており、「魚の骨」の絵図を使って、本人・家族の声・健康・生活・介護・ヒヤリハットに分類し、職員が気づきや聴き取りを記録にまとめ、検討を重ね介護プランへと生かしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念には、地域に馴染んだサービスの提供を心がけ、施設内に掲示している。また、毎月職員が考えた理念を掲示して、共有しあいながらサービスの向上に努め実践している	月1回のローテーションで、全職員が「もし自分だったらこうしたい」と利用者の立場に立って気持ちを考え対応しようと理念を掲げ、実践することを全員で共有・確認し、サービスの向上に生かしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的に散歩に出た時は近隣の人とあいさつを交わし、外気浴時は近隣の人と一緒にお茶やレクリエーションをする等して、交流を図っている。地域の活動や清掃活動にも参加し、施設の活動状況も地域の人に報告をし、交流を図っている。	地域の呼びかけでレクリエーションや清掃活動に参加したり、近隣の方々とお茶したりと日常的に交流が図られている。頂き物の野菜で作った煮しめやだんごを近隣に配り、喜ばれている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設長自ら地域のスポーツ交流会に参加し、近隣の清掃活動も行い、親睦を深めながら認知症の理解をしてもらっている。支援方法の協力をお願いしている。地域の学生ボランティアの受け入れやホームのイベント時は、近隣の高齢者にも参加をもらい、施設を知ってもらっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催し、利用者のサービス状況や入居者状況、事業活動の報告をし、意見助言をいただき運営に反映している。外部評価の報告も行い、家族会や地域役員様に協力支援を頂き、サービスの質向上に努めている。	運営推進会議で活発な意見やアイデア等を積極的に取り入れ、サービス向上に生かしている。その席で外部評価の報告も行い、家族にもホーム便りにて報告をしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	事業所のサービス及び入居者状況、事業活動の取り組み状況等は運営推進会議で報告し、意見・助言をもらっている。また、日頃から出向き、連絡や相談をし、協力をいただきながら事業活動に取り組んでいる。市の調査等も協力をしている。	市担当者とはさまざまな機会を通じて連携を図り、課題解決に向けて一緒に取り組んだり、市の調査協力に応じたりと、協力関係は築かれている。	運営推進会議の議事録を報告したり、ホームの取組を発信するなど、事業推進上の課題等を協議し、市担当者に事業展開のアドバイザー役としてかわってもらおうなど、更なる働きかけを期待したい。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中は門、玄関、居室、全てにおいて鍵をせずに生活をして頂き、身体拘束はしていない。事業所は、全職員に介護指定基準における禁止となる具体的な行為を正しく理解する勉強会をし、拘束しないケアに取り組んでいる。	身体拘束は行わないということをすべての職員が正しく認識しており、身体拘束のないケアを実践している。さりげない声掛け、目配り、気配り等、アイコンタクトを取りながら、施錠のないホームで自由にのびのびと生活できるように取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員が研修に参加したり、虐待防止のアンケートの依頼の協力をする中で理解しあい、全職員が虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	全体会議の中で資料を配布し、職員も知識の理解をしてもらうよう努めている。研修会にも積極的に参加していきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時は見学して頂き、利用者や家族の不安や疑問点について、親切丁寧に納得される十分な説明を行っている。また、改定等の際も、理解を得られるよう説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃から職員は、利用者と来所時の家族と一緒に積極的に会話したり、家族総会では要望や意見をもらい、サービスの質の向上確保と運営に反映させている。家族会会長は、運営推進会議の出席をしてもらう中で、地域役員様との交流が図れ、また、家族は近隣地域の職員と事業所のイベント等で交流できている。	運営推進会議、ホーム便り、イベント等を通して交流が図られており、また、ホーム独自の「魚の骨」絵図を通して、利用者や家族の声を聴取し、運営に反映させている。遠方や多忙の家族には、電話で生活の様子などを個別に報告し、要望等も聞く体制ができています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営に関する意見や提案は、随時、職員から小ミーティング等で聞きだしたり、全体会議で協議し、運営に反映している。また、日頃から職員のいろいろな悩み等もいつでも聞くように努め、話やすい環境作りのため、職員とのコミュニケーションを心がけている。	日々のミーティング、月1回の全体会で常に方向性、目標等を共有し、日常的に代表者と職員間のコミュニケーションがスムーズに行われており、職員は意見や思いを気兼ねなく言える関係を築いている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎月の勤務状況、実績や努力を把握し、勤務表作成時には休暇希望をとりいれ、無理のない勤務表を作っている。職員との面談等では意見や提案をきいたりして、やりがいのある働きやすい職場環境整備に取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は職員のスキルアップを図るため、一人ひとりの介護歴や能力、ケア力量の把握をし、社外研修を受けてもらっている。研修後も職員への水平展開を業務の中で行い、さらに事業所内での勉強会を定期的又は随時に行っている。資格取得の支援を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者と定期的に勉強会や研修を開催し、職員も参加することで交流を深めたり、サービスの質向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	申し込み時には、家族から本人の状況をしっかり聞きだし、本人の立場になって、思いや困っていること、不安なことを、全職員が親身になって傾聴し、職員間も情報共有しあいながら本人を理解することに心がけ、1日も早く安心して生活してもらえる支援に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談される家族の立場になって、話をしっかり聞き、理解するよう心がけ、電話での連絡・相談・報告をし、お便りの内容を充実したりして、コミュニケーションを図り、信頼関係を築いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族の意向をよく聴取して、本人が一番必要とするサービスの支援を見極め、説明を行っている。正確な情報はお伝えしながら、事業所として出来る、可能な限りの対応に努める。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ホームを家族の暮らしと捉え、一緒に生活している雰囲気作りに努め、職員は明るく笑顔のある支援を常に心がけ、利用者との喜びを共感しあったり、得意とすることなど把握し、教えてもらう話題作りをし、感謝することで信頼関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	常に家族との情報交換を行い、定期的なお便りで報告をしている。家族とは相談しあいながら、本人の生活を共に支援し、苦しみや喜びを共に受け止め、信頼関係作りをしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会にきて頂いたときは、椅子やお茶などの用意をして、くつろげる雰囲気作りをし、楽しい時間を過ごしていただけるようにしている。また、面会にきていただけるよう利用者と一緒に見送りをしている。	お孫さんも含めた家族や近隣の方々、運営者のスポーツ関係の仲間やその友人たちなどが、いつでも気軽に自由に立ち寄られる環境にある。墓参りやお寺参り、買い物等の外出支援、お盆やお正月の帰宅等、交流の場を多く持てるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し、トラブルがおこらないよう、また、ストレスを抱え込まないテーブルの配置や配席に配慮しながら、リーダー的な方のお力を借りて、レクリエーションやくつろぐ時間を楽しく過ごしてもらえるよう努力、支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所入院などされた時などは、お見舞いに行ったりして、家族に経過をお聞きしたりして、必要に応じ相談の支援にも努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	笑顔で寄り添い、会話を多くし、利用者の立場にたった会話に心掛け、思いや希望を聞くように努めている。全職員で一人ひとりの月評価をし、記録にまとめている。さらに、一人ひとりの把握理解に努め、随時検討会議をし、本人のペースに合わせた介護の統一に取り組んでいる。	個々の利用者の思いや希望が十分把握できるよう、日ごろからコミュニケーションを大切にしている。失語の利用者には、口の動きや筆談で会話するなど、日々接する中で行動や表情でくみ取り記録し、随時検討会議を行い、介護の統一に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今までの生活歴や生活習慣、生活環境、また、サービス利用の経過を把握して、ホームでの生活でその人の生きがいを見出せるようにするため、どのような支援が必要か検討している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の生活の中で、1日3回のバイタルチェック等で記録し、体調の変化に早く気づき、的確に把握し、精神面の状況も記録に残し、職員同士の連絡をこまめにし、その人の過ごし方を無理のないよう支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画は、本人と家族からの意見を聞き、本人がよりよく暮らせるため、ケアのあり方について全職員で月評価をし、検討会議を行っている。ケアの工夫をし、現状に即した無理のない計画を作成している。	ホーム独自で考案された「魚の骨」の絵図に、利用者や家族の声、生活機能、健康状態、ヒヤリハット等、利用者の視点に立った個別の介護記録をベースに、計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護に関する記録の様式を職員が記録しやすく工夫して、日々のケアの実践記録、ヒヤリハットの記録、気づきを個別記録し、職員間の情報連絡記録も介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人が家族と電話での会話を希望されたり、身の回り品の希望についても家族に連絡をし相談しながら、可能な支援の対応に努めている。また、音楽療法やボランティア、実習生の受け入れによる刺激のあるサービスにも取り組んでいる。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	消防機関から消防訓練に来てもらい指導を受けたり、連絡協議会の情報や地域包括支援センターからの情報、救急救命法の研修や病院医師による勉強会に参加して、安全な暮らしができるよう支援している。		
30	(11) ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族や本人の希望を大切に、今までの掛かりつけ医に継続して受けられるよう、連携協力関係を築きながら支援している。家族の希望を把握し、納得の同意を得ながら、事業所の救急協力医療機関の掛かりつけ医による往診や救急受診もできるよう支援している。	利用者・家族の希望する掛かりつけ医の受診も可能となっており、救急協力医療機関から定期的に往診があり、適切な健康管理ができています。	
31	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々のバイタルチェックを2回以上行い、記録での観察をし、利用者の体調の変化を気づき、全職員が把握し訪問看護師さんに報告相談を行い、適切な看護と受診が受けられるよう支援している。		
32	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は利用者の精神的ストレスを軽減するため、医療機関には本人に関する情報提供やケアについて看護師とも情報交換に努めている。家族とも相談し合いながら、精神的ダメージが大きくなるようにして、早期退院できるよう支援している。		
33	(12) ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	日頃から現状報告し、家族との面談では、事業所ができる事の十分な説明と方針を話している。スタッフ会議では、個々の重度化した時の対応方針や支援の力量の見極めを行っている。医療提携を結んでいる協力病院が救急医療機関であり、家族も医療機関での治療希望が強いので、協力病院と老健施設の連携を深めている。	終末期に対する方針を明文化しており、家族の意向を確認するとともに、同意を得ている。重度化した場合には、家族の希望を聞いて、それに沿った支援を行う体制を整えており、ターミナルにおける職員間の意思も統一し、研修も行っている。	
34	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急法の勉強会には全職員が参加し、数人の職員も普通救命の講習を受け、事業所内での応急処置の勉強会も行っている。また、緊急連絡体制の確認や緊急時のマニュアルも作成し、いつでも見れるようにしている。		
35	(13) ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月1日を独自防災の日と設定し、通報訓練、避難訓練を実施している。さらに消防機関の指導で総合消防訓練を年2回実施し、消火訓練もしている。年14回実施している。近隣の方には協力員としてお願いし、日頃から事業所の設備状況避難場所の確認と協力もお願いをしている。	年2回の総合消防訓練、月1回の自主防災訓練を実施しており、いざという時は慌てず速やかに避難誘導ができるよう、職員も心がけている。地域住民の協力も得られる体制ができています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の尊厳と権利を守る個人情報保護法については勉強しあい、全職員が常に意識し、書類の保管や職員の守秘義務を守るよう確認しあっている。また、居室ではプライバシーを損なわない言葉かけの対応で、排泄時もケアをしている。	個人書類は事務所に保管し、個人情報の保護に努めている。利用者の意思を尊重した支援を行うとともに、声掛けや言葉遣いに注意し、プライバシーを損ねないように注意している。野尻町の「びっきょん会」で勉強会をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常に寄り添いながら言葉かけを行い、本人の思いや希望を聞き出せるよう心がけ、自己主張を尊重して、可能な限り支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの生活のリズムができており、その日の精神状態や体調を配慮しながら本人の希望を尊重し、本人のペースにあわせて支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	目的に応じた洋服の選択や動きやすい服の希望や好みも配慮し、着用していただけるよう支援している。化粧品の希望も支援し、定期的に散髪にきてもらい、一人ひとりの髪型に合わせて気持ちよく過ごしていただけるよう努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	家庭菜園で職員と一緒に野菜作りをし、成長や収穫を楽しみ、また、能力に応じ簡単な食材の皮むき等の手伝いしてもらい、旬の野菜で馴染みの田舎料理を食べてもらっている。味噌もこだわり、手作りを提供している。おやつや食事は、職員と会話しながら一緒に食べてもらっている。	家庭菜園で収穫した野菜や近隣から頂く野菜を使って、和食中心の料理となっている。職員も利用者とともに同じ食事をおしゃべりしながら食べている。利用者と一緒におやつを作り、近隣に分けてあげて喜ばれている。味噌や梅干しも利用者とともに作り、常備している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の健康状態を把握し、食べる量や水分摂取量、調理方法、それぞれの利用者にあわせ形や硬さなど工夫して食べやすくして食事をしていただいている。また、栄養のバランスも考え、季節の野菜などをとり入れた献立表を作成して、調理している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は必ずうがいや、義歯の洗浄、歯磨き等を促し、できない部分は支援しながら清潔に保つ確認支援をしている。また、口腔ケアの勉強会をし、誤嚥肺炎防止に努めている。		

宮崎県小林市野尻町 グループホーム太陽の郷

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	1日の排泄状況を記録し、利用者の排泄パターンや失禁等を把握して、トイレへの声掛け誘導支援をし、その人に合った自立支援を行っている。日中と夜間はオムツやパットを使いわけて、本人の精神的な負担の軽減に努めている。	タイミングを見計らい、さりげなく誘導し、失禁の対応は不安やしゅう恥心、プライバシーに配慮し、自立支援を行っている。トイレでは、足首が見えるほどの白い長いカーテンを取りつけ、時々声掛けし、見守りしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェックを行い、日々記録に残すことで、それぞれの健康状態を把握し、水分摂取、食材、おやつ等の工夫をして便秘予防に取り組んでいる。個々の排便状態は、医療機関とも相談しながら薬の調整をして対応し、自然排便ができるよう支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴支援介助の必要な利用者は全員のため、曜日や時間帯は事業所の都合で決めているが、臨機応変な入浴日にも配慮している。入浴前はバイタルチェックでその日の体調健康状態を観察し、入浴順番も配慮し、本人に合わせた湯加減や入浴介助をして、気持ちよく楽しんでいただいている。	利用者の希望や意思に沿った支援がなされている。入浴困難な利用者には、清拭を行うなど、利用者の健康状態に応じて支援介助を行っている。入浴剤に『除菌314』を使用し、感染症予防や加齢臭防止等にも配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜眠れるよう生活のリズムを作る支援をし、布団の天日干しやこまめに清潔なシーツ交換を行い、居室の整理整頓に心がけ、安心して気持ちよく休めるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者の服薬のファイルを作成し、すぐ確認ができるようにしている。誤薬が無いよう、一人ひとり服薬の支援を行い、症状の変化の気づき等は記録に残し、経過確認しあうように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者は、全員で歌を歌ったり踊ったりする楽しみやその人が好きなことを役割とすることにより、この場所が自分は役にたっている喜びを味わい、また、職員が感謝の言葉を表現し、張り合いのある暮らしができる支援に努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	利用者の体調にあわせ、近隣に花見散歩に出かけたり、近く店までの買い物支援を行っている。本人希望の墓参りや家族との外食等は家族と相談し、協力を得ながら外出できるよう支援している。	日常的に外気浴に触れる機会をつくり、気分転換や五感を刺激する目的で菜園の野菜や花の観察をしたり、家族の協力で墓参り、お寺参り、買い物等の機会が多く持てるよう、積極的に支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分でお金の管理が困難な方が多く、家族との相談の上、所持してもらっていない。買物に行く時は、家族に連絡して了解を得て、近くのお店まで行く支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	いつでも、本人の希望があるときは、家族への電話をする支援をしている。手紙を書くまでの能力は少ないため、簡単な年賀状などを書く支援をし、投函まで支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングは、いつも採光が取り入れられ、庭の花壇の花を見たりでき、ゆっくりくつろげるような畳の空間もある。整理整頓と清掃で清潔を保ち、季節の花を飾ったり、絵を飾ったりしている。室温調節や湿度調節、換気にも心がけ、快適に居心地良く生活できるよう心がけている。	玄関前に日々草が咲き誇り、中に入るとコスモスや柿・栗が生けてあり、季節感を感じる。ほどよい自然光がそそぎ、明るい印象を与えており、温度や湿度の調整も適度に行われている。リビングと台所が隣接し、調理の音、匂い等で食事作りの様子が肌で感じられる。畳の間もあり、利用者のくつろぐ場となっている	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングの畳では、思い思いに気のあった利用者同士で座られたり、一人でも好きな時、横になられるようにしている。座布団等を用意して、居心地よく過ごしていただける支援をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で利用していた馴染みの家具や使い慣れた物を持ってきていただき、花や人形飾り付けをし、利用者が安心して居心地良く暮らせる明るい空間作りをしている。また、お部屋担当者を決め、衣類の確認や清掃、整理整頓を行い、清潔を保っている。	居室は明るく、窓外の景色も眺望でき、使い慣れた収納ダンスや鏡台、化粧品、家族の写真、ご主人の遺影等が置かれており、居心地良く安心して過ごせる工夫された空間となっている。壁掛け時計や手作りのカレンダーは、利用者の目線に合わせて配置されており、見やすく工夫されていた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部は、利用者が車椅子やシルバーカーを動かし易い広さを確保し、危険に繋がらないよう、検討会議をし、毎日整理整頓を行っている。認識間違いのないようトイレ表示も大きくして、わかりやすい工夫をしている。		